

小中一貫教育研究会の提言 その3

前回に引き続き「東伊豆町小中一貫教育研究会」の研究でまとめられた提言の内容をご紹介します。今回は提言2です。

(研究報告書は、東伊豆町のホームページでご覧になることができます。)

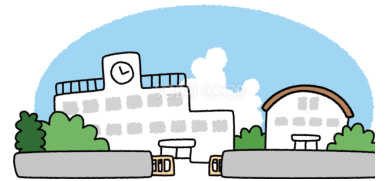
提言2

東伊豆町における小中一貫教育の在り方は、熱川・稲取両地区に施設一体型の小中一貫校を設置することが望ましい。また、現在の小・中学校の校舎・施設を活用することを基本とし、学校の形態としては、義務教育学校としたい。

熱川・稲取両地区の特色を最大限に生かした学校づくり

東伊豆町がこれから目指すべき「地域と一体となった学校」は、これまでの地域との関係を生かしつつ、さらに地域との連携を深化させた教育拠点となることが望ましいと考える。子どもたちの教育を支えてきた熱川・稲取両地区のもつ歴史や文化、地域の特色を最大限に生かし、そこに暮らす子どもと大人の新たな教育の基盤を再構築するための小中一貫校を設置したい。

子どもたちが地域に出て学び、地域の皆さんが学校に集い、子どもたちとともに学べる学校環境を整備するために、学校設置場所は、地域とのつながりを密にできる、熱川・稲取両地区にすることが望ましい。



また、施設については、1年生(小1)から9年生(中3)までの児童生徒が日々交流できる小中一貫のよさを生かす活動や、小中の教職員が連携して授業や研修を行うことがより取り組みやすい施設一体型とすることが妥当である。



校舎等の施設については、新たな場所に新築することは建設費や設置場所確保等の課題があり、現実的ではないと考える。児童生徒の通学路維持や学校立地の利便性等も考慮すると、現在ある小学校か中学校の校舎・施設を増改築して活用することが望ましい。熱川・稲取両地区とも小・中どちらかの校舎等施設をベースとし、小中一貫教育に必要な学校施設設備の充実を図りたい。

新たな学校づくりを進めるに当たって、安全に通学できる教育環境整備は重要な課題であるが、熱川・稲取にそれぞれ小中一貫の学校を設置することにより、基本的に現在の小・中学校とほぼ同じ距離、同じルートでの登下校ができる。両地区に学校を置くことは、通学にかかる時間や現在の安全性が継続できるというメリットも大きい。



★ご質問・ご意見は、東伊豆町ホームページの【お問い合わせ】か
東伊豆町教育委員会【電話】0557-95-6207【〒】413-0411 東伊豆町稲取3354
【メール】kyouiku@town.higashiizu.lg.jp お願いします。